

1 研修や教材に関する情報について

愛知教育大学をはじめとする子どもの日本語教育について学べる大学は、さまざまな研修を企画していますし、「子どもの日本語教育研究会」や「子どもメール（メーリングリスト）」なども多くの情報を発信しています。

教材については、わたしの事前配布資料にいくつかご紹介しました。アプリについても載せてありますので、参照してください。

情報がほしいときに、「知っている人にきく」ことは有効なひとつの方法ではありますが、それだけではなく、自分で必要な情報にたどりつく／情報が集まってくるようにしておくことが必要だと思っています。「周りにきける人がいない（きいてもその人もわからない）」なら、その周りの人たちといっしょに情報を探す作業をするのもよいでしょう。手間がかかることではありますが、そのような情報ネットワークを構築しておくことで情報が呼び、人とつながっていくことにもなると思います。

2 南吉田小学校の国際教室について

初期指導（児童によって期間は異なります）を経て、国際教室（学年）で国語の取り出し指導に入ります。扱う教科は国語で、在籍級と同じ単元を扱います。南吉田小学校には各学年に国際教室が設置されており、今年度、常勤・非常勤の教員が1名ずつ担当しています。初期指導担当のわたしを含めて7名の教員がいます。また、国際教室担当教員以外に、外国語補助指導員（南吉田小学校には中国語と英語を話す非常勤の指導員が在籍し、児童と保護者の支援にあたります。教員ではありません。）、また、横浜市国際交流協会が運営する「みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ」から派遣される通

訳ボランティア（児童が在籍級での授業に参加する際の通訳をします）が支援を行います。

学校内外での連携の取り方については、講座2を担当された大菅佐妃子先生（京都市教育委員会）の質問への回答をご覧ください。とても参考になります。

加えて、わたしが常々思うのは、「どの子どもも‘うち’の児童（生徒）」であり「学校のなかでもそとでも、いろいろな大人が考えうるあらゆる手段で子どもの成長を支える」という認識が組織内で共有されていれば、たいがいのことは何とかなる、ということです。

3 国際教室（初期指導クラス）の授業について

初期指導だから聴く・話す活動が中心かということそうではありません。研修でお話したとおり、「日本語ゼロ」で教室に来た初日から、四技能並行で授業活動を行います。

お見せした授業活動については、いただいたご質問を見ると説明が足りなかったようですので補足しておきます。

この活動の目的は、掃除のことばを確認し練習をすることで、自信を持って実際の清掃時に言語を媒介にしてほかの児童とコミュニケーションができるようにすることでした。児童が活動の最後にわたしの「オッケイ？」に答えて「うん！」と自信を持って言えたことが重要なことでした。

「掃除のことばと文型」については、この活動で初めて扱ったのではなく、「ほうき」や「運びます」などのことばは既習です。絵カードを使って、いろいろな方法で定着させるのですが、児童は自分が書いたノートを最初は確認していました（「書く」活動もしている、ということです）。また、教科（国語や算数）の学年相当の内容についても、

国際教室で扱っています。

研修やワークショップで、ほかの人の実践を見ることはよい機会になるのですが、「なぜこの実践・活動を行っているのか。自分はそれをどう分析するか」を考えただけで、自分の授業でどうするか工夫することが必要です。

4 大人との違いについて

子どもと大人の日本語習得の違いは、講座でお話した「発達」にかかわる側面だけではありません。わたしが考える最も大きな違いは、「子どもは日本語が学びたくて（日本に来たくて）来たわけではない」というところです。

子どもの成長と心の事情に合わせて、日本語で学ぶことの意味を子ども自身が見出だせるように伴走するのがわたしたち大人にできることではないかと思っています。

「ある程度になるまで日本語をしっかりと」「日本語指導と教科学習指導を並行的に行うには」「将来のことをどう考えるか」などなど、みなさまからは子どもへの愛情に満ちたお悩みのご意見とご質問をいただきました。「こうあるべき（例：このカリキュラムでこの教科書を使うべき）」「それをすればよい結果が出る（例：日本語基礎が終わるまでは日本語学習しっかりと、あるいは、教科学習をどんどんやっていく）」という理想を求めすぎると、子どももわたしたちも苦しくなってくる…というのが子どもの日本語の世界ではないかと思います。

あきらめず粘り強く、手を変え品を変え、と考えると時間も手間もかかりますが、そうして伴走した子どもの「あっ！できる！わかる！」という瞬間に立ち会えるすばらしい仕事でもあります。